

2015-16 年度 国際ロータリー第 2690 地区  
地区補助金奨学生報告書 第一回 (2015 年 9 月～2015 年 11 月)  
久野 愛

## 1. 学業面での成果

私は現在、ストックホルム大学とカロリンスカ研究所という 2 つの大学の共同研究機関である Centre for Health Equity Studies(CHES) という場所にて公衆衛生学修士課程に所属しています。この修士課程には現在、9 人のスウェーデン人と、私を含めた 6 人の留学生の計 15 名が在籍しています。9 月から始まった今年度は 2 年目で最後の年であり、11 月までに所定の科目の履修を終え、12 月以降は修士論文の執筆をする予定となっています。

9 月は「人口統計学」、10 月には「福祉国家における疾病と健康」、そして 11 月には「グローバルヘルス」というコースを履修し、無事に所定の科目全てを終えることができました。11 月のグローバルヘルスのコースでは、ストックホルムにある赤十字が運営する難民のためのクリニックに訪問する機会がありました。私達が訪れたクリニックは、難民の中でも特に拷問などによって重度の心的外傷後ストレス障害を受けた人々の治療を専門としている場所でした。そこで働く心理士さんのお話の中で、家族で訪れる患者さんの中では、特に責任感の強い父親が最も深い心の傷を負っている場合が多いというお話があり、とても印象的でした。また、12 月からの修士論文にむけてスーパーバイザー(担当教諭)と大まかなテーマ決めを行いました。私は、心の病について興味があるとともに、「ライフコース疫学」という、「出生から老化に至るまでのライフコースの中で疾病リスクがどのように変化するか」という分野に興味があるため、幼児期・児童期の家族構成の変化(両親の離婚・死別等)が、その後の成人期における精神障害リスクにどのように結びつくかについて分析を行うことにしました。

写真 1. スtockホルム景観



### 3. 受け入れ地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

ストックホルムにある2つの地区から受け入れを快諾して頂いたため、様々なクラブの方と交流をもつことができました。具体的にクラブ訪問の予定が立つまでに時間がかかってしまい、最初のクラブ訪問(Rotary Stockholm-Kungsholmen)を行うことができたのは11月の半ばになってからでした。Stockholm-Kungsholmen は、まだ設立して2年ほどの比較的新しいクラブでした。このクラブは毎週金曜日の朝に定例会を行っており、朝食会にてロータリアン同士の交流を持った後、会議室にてゲストスピーカーによる30分ほどの講話や、クラブのロータリアンによる報告等が行われました(写真2)。私が訪問した日は、摂食障害をもつ方のための支援センター(Stockholms Centrum för Åtstörningar)の方がゲストスピーカーとして登壇し、摂食障害の実際や、周りの人々が行うことができるサポートについてお話を伺うことができました。Stockholm-Kungsholmen クラブには、来年2月か3月頃に改めて訪問し、プレゼンテーションをさせて頂くことになりました。

写真 2: Stockholm-Kungsholmen にて



翌週には、Stockholm-Strand という別のクラブの定例朝食会に参加させていただきました。こちらはストックホルムにある多くのロータリークラブの中でもかなり古い歴史を持つクラブでした。そのため、朝食会にいらしたロータリアンの数も Kungsholmen のクラブよりもかなり多く、規模が大きい印象でした。その日のクラブの会長の Larsson さんのお話のテーマが俳句についてで、前の週に Larsson 会長ご自身が俳句会でお詠みになった句を紹介されていました。スウェーデン語では日本語のように五・七・五と決まった文字数で句を詠むことはできないものの、韻を踏み、短い句の中に季節や感情を織り交ぜるよう工夫するのはとても楽しいことだと仰っていました。

11月末に、私のカウンセラーとしてサポートをしてくださる Fleetwood さんが所属する Stockholm-Sergel というクラブの定例昼食会に参加いたしました。

この日は残念ながら Fleetwood さんに会うことが出来なかったのですが、来年改めて訪問し、プレゼンテーションを行うこととなりました。

### 3. 直面した課題、問題点等

学業面では特に大きな問題はありませんでしたが、ロータリアンとの交流に関して、ストックホルムにある 2 つの地区の担当者との連絡、そしてその後のクラブへの連絡等に時間がかかってしまったことが大きな課題でした。訪問はやや遅れてしまったものの、多くのクラブから訪問についての連絡を頂き、受け入れクラブ以外のクラブでも実際に多くのロータリアンとお会いしてお話を伺うことができたことは、大変貴重な機会となりました。

### 4. 今後の目標

スウェーデンではパーソナルナンバー制度(社会保障番号/住民番号)が社会に定着していることにより、研究のために使用できるデータが非常に大きく、また信頼性の高いものであることが、私がスウェーデンで疫学を学ぼうと決めた理由の一つでした。1月から本格的に始まる修士論文のプロジェクトでは、スウェーデン統計庁によりパーソナルナンバーと関連付けられて収集された膨大な臨床データや処方データを用いる予定です。ランダムに抽出した集団を分析するのではなく、特定の期間中にスウェーデンに居住していた全ての人々を対象とする、全数での研究を行うことができます。世界でもいくつかの限られた国でのみ可能であり、とても貴重な機会であるため、今後は具体的な集団の絞込みやデータ分析の手法決めを慎重に行っていきたいと考えています。

また、ロータリアンとの交流の面では、1月以降に Stockholm-kungsholmen と Stockholm-Sergel の 2 つのクラブに改めて訪問し、プレゼンテーションを行うことを目標としています。また、カウンセラーの Fleetwood さんとは頻りに連絡を取り合っているものの、まだ直接お会い出来ていないため、今後改めてお会いする時間を取りたいと思っております。